

〔 令和 7 年 9 月 30 日
総合教育会議 〕

子供の学力に影響を及ぼす 諸要因について

目 次

1. 神戸市教育大綱（抜粋）
2. 全国学力・学習状況調査の結果
 - （1）神戸市 | 令和 7 年度 全国学力・学習状況調査
 - （2）全 国 | 令和 6 年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査
3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献
4. これまでの市の取り組み
 - （1）「スマートスマホ都市KOBE」
 - （2）- 1. 令和 3 年度第 1 回神戸市総合教育会議（R3.4.20）
- 2. 総合教育会議後の取組内容
 - （3）神戸の子ども居場所フォーラム

※本資料中の『スマホ』は、スマートフォンを指します。

1. 神戸市教育大綱 (抜粋)

7 教育に関する科学的な調査研究を進めます。

教育は、多様な価値観の中で子供たちに規範意識を醸成するという極めて困難な使命を有している。この使命を全うしていくに当たり、科学的根拠に基づく理論的考察、客観的データに基づく調査分析を不断に行っていくことが求められている。このような理論的、客観的な調査分析にあたっては、教育関係者の経験とともに、外部の専門家の知見を活用することも有益である。

とりわけ、「6. 子供たちを健やかに育てる環境の整備」でも触れたように、ネット社会の進展は子供たちの心理や行動に大きな影響を与えていると考えられることから、このようなネット社会化も含めた子供たちを取り巻く環境の変化に関する調査分析は不可欠である。

教育に関する科学的な調査研究を充実させるとともに、それらの成果を実際の教育現場にどのように反映させていくかについては、専門家の意見を聴取しつつ、教育委員会において検討を行っていく。

2. 全国学力・学習状況調査の結果

本項目における掲載内容は、文部科学省・国立教育政策研究所が公表している令和7年度全国学力・学習状況調査結果、令和6年度経年変化分析調査・保護者に対する調査結果の資料より抜粋・引用

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(1) 神戸市 | 令和7年度全国学力・学習状況調査

調査概要

実施日* | 令和7年（2025年）4月17日

調査対象 | 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、特別支援学校中学部3年生

調査内容 | 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
児童生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

調査方法 | [国語・算数・数学] PBT（Paper Based Testing：冊子による筆記方式）
[理科] 文部科学省CBTシステムによるオンライン方式 ※CBTは、Computer Based Testingの略称

本市の調査に参加した学校数・児童生徒数 |
[小学校] 165校／11,908名 [中学校] 86校／10,162名

*実施日は教科に関する調査日

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(1) 神戸市 | 令和7年度全国学力・学習状況調査

教科調査

●小学校

国語・算数は全国をやや上回り、
理科は全国と同水準であった

[各教科の平均正答率]

教科	R 7			(参考) R 6		
	神戸市	全国 (公立)	比較	神戸市	全国 (公立)	比較
国語	68	66.8	+1.2	68	67.7	+0.3
算数	59	58.0	+1.0	64	63.4	+0.6
理科	57	57.1	-0.1	-	-	-

●中学校

数学は全国をやや上回り、
国語・理科は全国と同水準であった

教科	R 7			(参考) R 6		
	神戸市	全国 (公立)	比較	神戸市	全国 (公立)	比較
国語	54	54.3	-0.3	58	58.1	-0.1
数学	50	48.3	+1.7	55	52.5	+2.5
理科	504※	503※	+1	-	-	-

※中学3年生理科についてはIRTスコアで表示。(IRTスコア：各設問の正誤パターンの状況から推定し、500を基準にした得点)

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(1) 神戸市 | 令和7年度全国学力・学習状況調査

質問調査（児童生徒）

- 『学校外での勉強時間』は、小では横ばい、中は減少傾向
- 『授業の理解度』は、小中ともに減少傾向
- 『自分で考え自分から取り組んだ』は、小は増加傾向
- 『授業時におけるICT機器の使用頻度』は、小中ともに大幅に増加

※前年度結果との比較

○：増加（3%以上）

▽：減少（3%以上）

単位：% （）内は全国平均

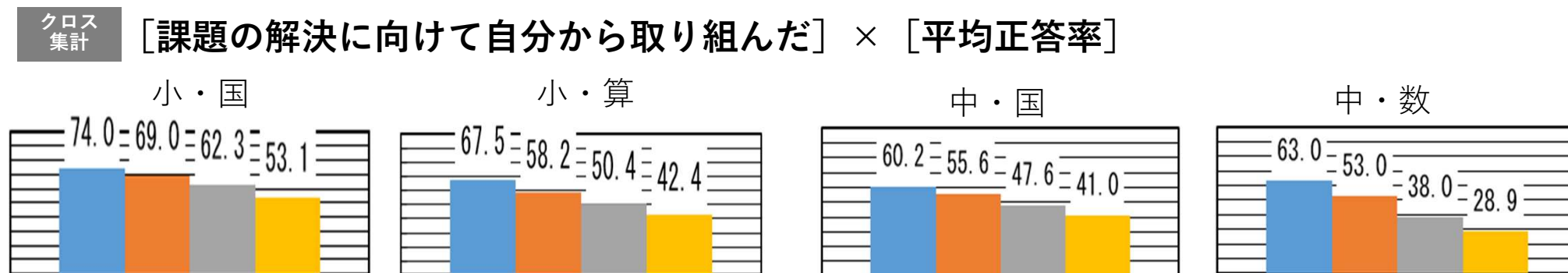
質問内容	小学校				中学校			
	R5	R6	R7	増減	R5	R6	R7	増減
学校の授業以外での勉強時間 (30分以上)	81.7 (84.0)	79.9 (81.6)	80.8 (81.4)		83.8 (83.8)	83.7 (82.7)	81.7 (80.7)	
「国語」の授業よくわかる	83.7 (85.7)	82.6 (86.3)	78.5 (82.8)	▽	79.7 (80.0)	80.8 (82.7)	75.3 (77.0)	▽
「算数・数学」の授業よくわかる	78.3 (81.2)	77.8 (82.1)	74.0 (78.3)	▽	69.3 (73.3)	73.4 (75.7)	66.2 (70.3)	▽
課題の解決に向けて、自分で考え 自分から取り組んだ	74.0 (78.8)	77.1 (81.9)	78.0 (80.3)		75.9 (79.2)	77.0 (80.3)	72.5 (77.0)	▽
授業でのPC／タブレット等のICT機 器の使用頻度（週3回以上）	45.7 (62.4)	58.8 (59.5)	79.5 (71.7)	○	44.3 (61.1)	54.1 (64.4)	74.3 (76.5)	○

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(1) 神戸市 | 令和7年度全国学力・学習状況調査

クロス集計

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。



- 授業がよく分かる児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。



2. 全国学力・学習状況調査の結果

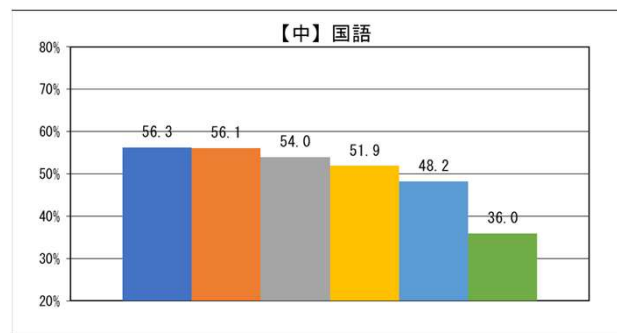
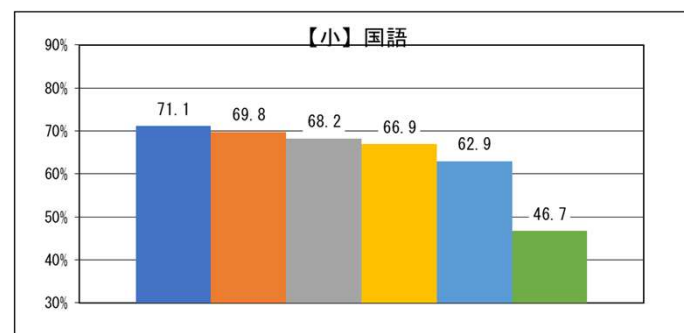
(1) 神戸市 | 令和7年度全国学力・学習状況調査

クロス集計

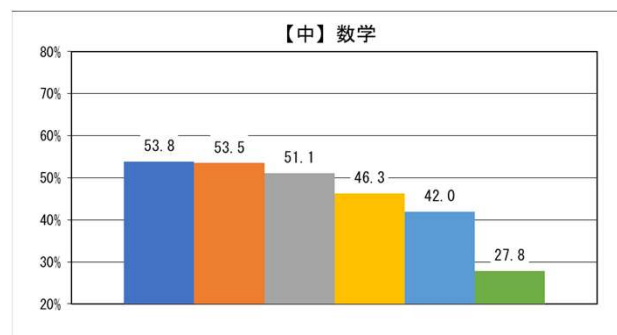
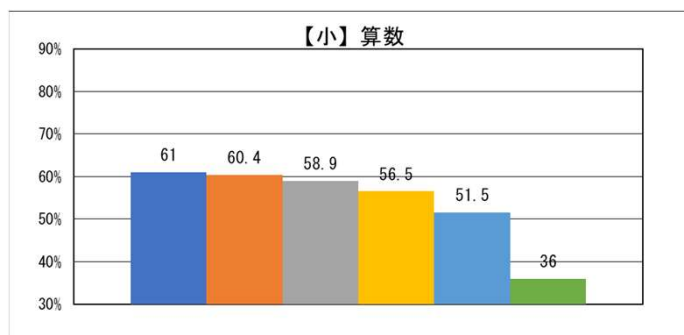
- 児童生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率との間に、一定の関係が見られる。

クロス
集計

[タブレットなどのICT機器を使用した頻度] × [平均正答率]



■ ほぼ毎日 (1日の複数の授業で活用)
■ ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業)
■ 週3回以上
■ 週1回以上
■ 月1回以上
■ 月1回未満



2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

調査概要	経年変化分析調査	保護者に対する調査
調査目的	全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる (H25・28・R3年度に続き4回目)	家庭状況と学力等の関係について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる (H25・29・R3年度に続き4回目)
調査対象	国・公・私立の小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒【抽出】	本体調査及び経年変化分析調査を実施した児童生徒の保護者
調査内容	国語、算数・数学、英語（中学校のみ）	児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等について質問調査を実施

◆標本学校数

	合計	PBT実施校 ※1	CBT実施校 ※2
小学校	1,200校（約6万人）	〔国・算〕各300校（約3万人）	〔国・算〕各300校（約3万人）
中学校	1,500校（約14万人）	〔国・数・英〕各250校（約7万人）	〔国・数・英〕各250校（約7万人）

※1 PBT実施校：これまでと同様の、冊子を用いた筆記形式で調査を実施する学校

※2 CBT実施校：児童生徒が活用するICT端末を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で調査する学校

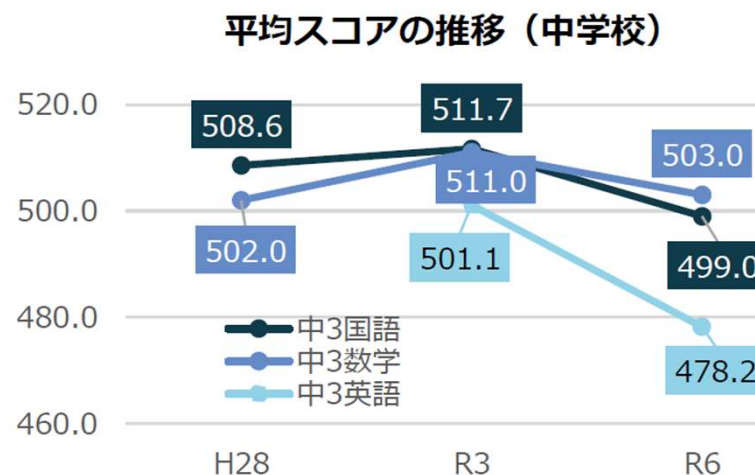
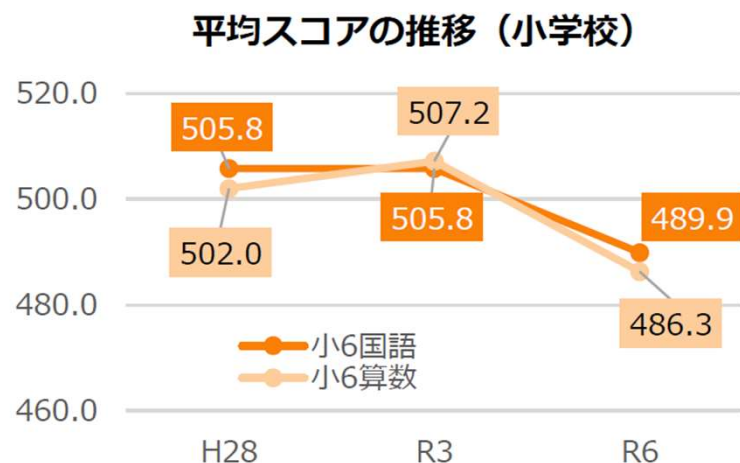
2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

経年変化分析調査の結果概要

① 国全体のスコアの推移（基準年(H28)との比較）

- ・ 小学校国語・算数、中学校国語・英語については、スコアの低下が見られた。
- ・ 中学校数学については、スコアの変化は見られなかった。



2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

経年変化分析調査の結果概要

② 社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*とスコア

- SESが低いグループほど、経年変化分析調査のスコアが低い傾向が見られる。
- SESが低い層の方がスコアの低下が大きい状況が確認された。（中学校英語を除く）

*全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用している。

小国	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	463.9	511.7	535.1
R6	448.7	502.3	526.2
R6-R3	-15.1	-9.3	-8.8

中国	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	479.6	517.8	538.0
R6	466.8	512.5	535.5
R6-R3	-12.8	-5.3	-2.5

小算	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	462.9	512.5	541.4
R6	444.4	500.1	525.3
R6-R3	-18.5	-12.4	-16.1

中数	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	484.0	517.5	536.3
R6	474.0	515.3	536.8
R6-R3	-10.0	-2.2	0.5

中英	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	474.6	508.1	522.9
R6	455.0	487.9	506.5
R6-R3	-19.6	-20.1	-16.4

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

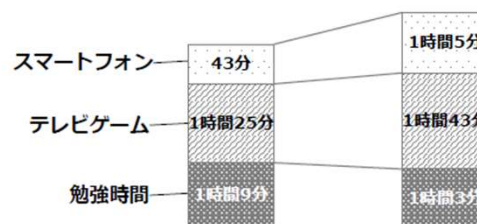
保護者に対する調査結果

③ 児童生徒の学校外での過ごし方

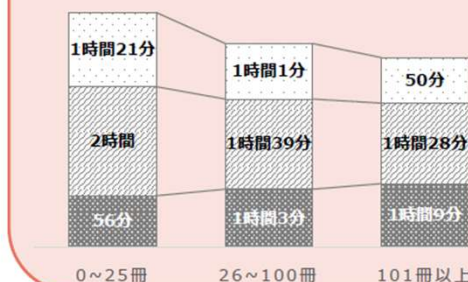
- ・ 学校外での勉強時間は前回調査から減少。
- ・ テレビゲームの使用時間は前回調査から増加。
- ・ スマホの使用時間も前回調査から増加。
- ・ SESが低いグループほど、勉強時間が短く、テレビゲーム・スマホの使用時間が長い。

< 子供の学校外での平均的な過ごし方（平日） >

小学校6年生 令和3年度 → 令和6年度



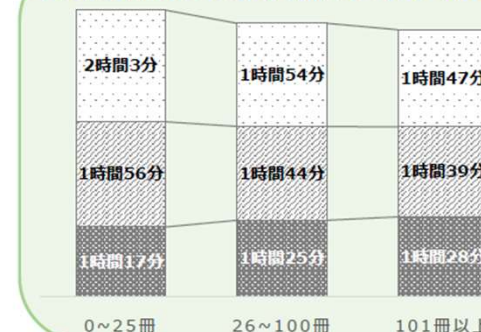
社会経済的背景（SES）別の過ごし方（R6）



中学校3年生 令和3年度 → 令和6年度



社会経済的背景（SES）別の過ごし方（R6）



2. 全国学力・学習状況調査の結果

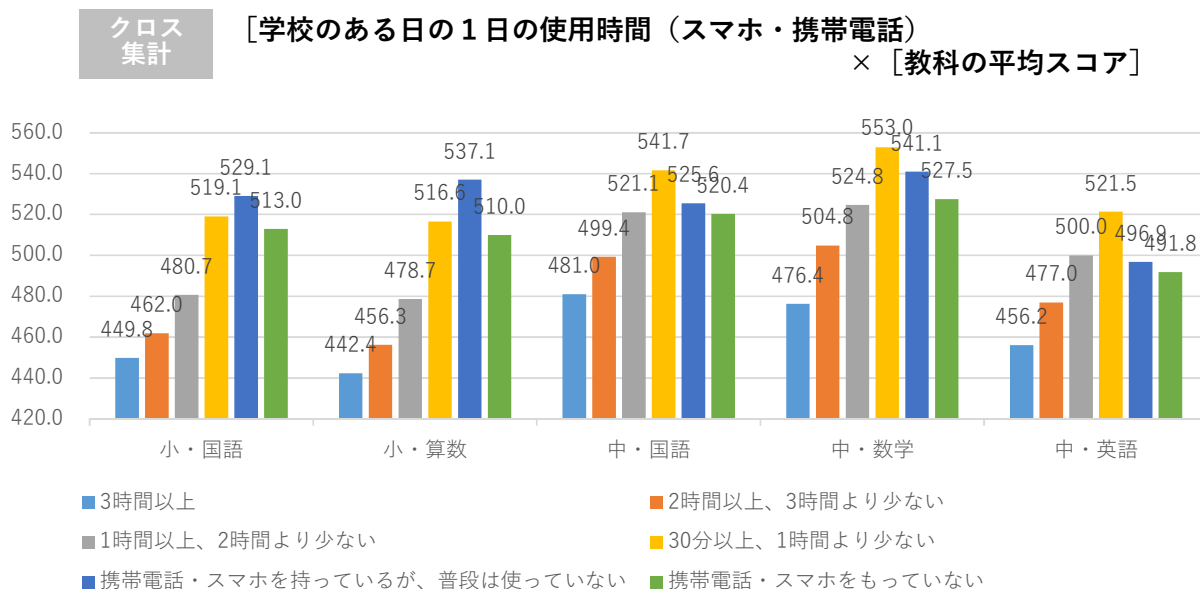
(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

保護者に対する調査結果

③ 児童生徒の学校外での過ごし方

- ・ 学校外での勉強時間が長いほど、スコアが高い傾向。
- ・ テレビゲーム*の使用時間が長いほど、スコアが低い傾向。
- ・ スマホの使用時間が一定程度を超えるとスコアは低下。

*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマホを使ったゲームも含む。



●スマホ・携帯電話の使用時間（平日）



2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

保護者に対する調査結果

④ 学校外での過ごし方に影響を与えるもの【保護者の意識・働きかけ】

- ・ 「計画的に勉強するよう子供に促している」「保護者が子供と学校の勉強のことについて話をしている」保護者（前回調査から割合減少）の子供の方が、勉強時間が長い。
- ・ 「楽しければよい成績を取ることはこだわらない」と回答した保護者（前回調査から割合増加）の子供の方が、勉強時間が短い。
- ・ 「ゲームの時間を限定している」「スマホルールを守るよう促す」保護者の子供の方が、ゲーム・スマホの時間が短い（特に小学生）。
- ・ 保護者のゲーム・スマホの時間が長いほど、子供のゲーム・スマホの時間が長く、勉強時間が短い。

※ 児童生徒の学校外での過ごし方が変わっている理由や背景は、本調査だけではわからないことに留意が必要

2. 全国学力・学習状況調査の結果

(2) 全国 | 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査

保護者に対する調査結果

④ 学校外での過ごし方に影響を与えるもの【学校の授業】 ※R6児童生徒質問調査より

- ・ 国語、算数・数学の授業が「よく分かる」児童生徒や主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、勉強時間が長く、テレビゲームやSNS・動画視聴の時間の使用時間が短い。

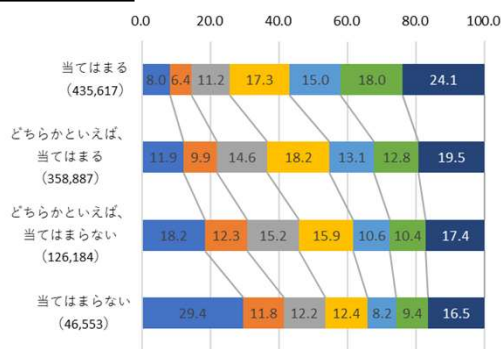
クロス
集計

【算数・数学の授業よく分かる（子）】 × 【SNS・動画視聴（子）】

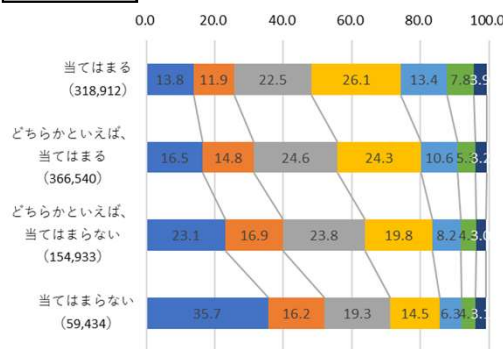
クロス
集計

【課題の解決に向けて自分から取り組んだ（子）】
× 【SNS・動画視聴（子）】

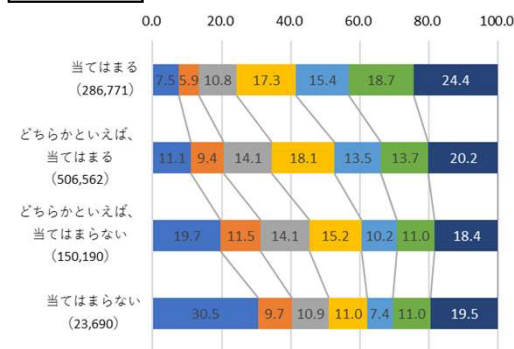
小学校



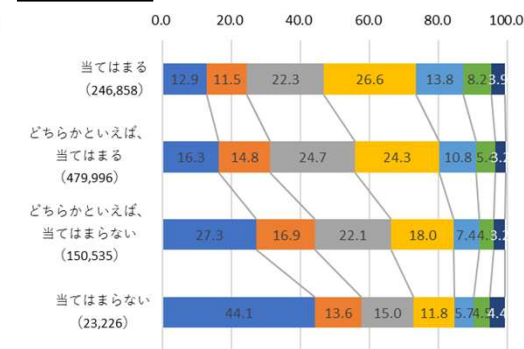
中学校



小学校



中学校



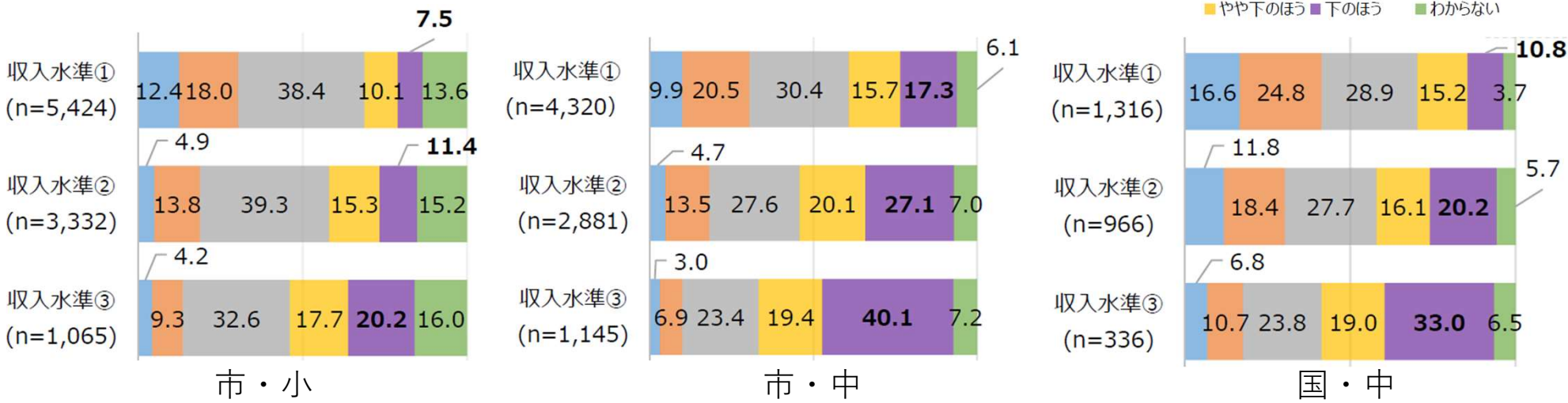
■4時間以上 ■3時間以上、4時間より少ない ■2時間以上、3時間より少ない ■1時間以上、2時間より少ない ■30分以上、1時間より少ない
■30分より少ない ■携帯電話・スマホをもっていない

<参考> 「神戸市 子供の生活状況に関する実態調査」(令和3年度) より抜粋

● 学習成績（等価世帯収入※の水準別）

※世帯の年間収入を、同居家族の平方根で除したもの

クラスのなかでの成績について「下のほう」と回答した割合（■）は、等価世帯収入の水準が低い世帯で高い。



- (参考) 調査概要
- ・ 対象者：神戸市立学校の小学5年生・中学2年生生徒とその保護者
 - ・ 調査実施日：令和3年9月1日から17日
 - ・ 調査方法：学校を通じて調査票を配付・回収
 - ・ 回収率：児童・生徒：83.4% (20,186件)、保護者：82.9% (20,055件)
 - ・ 実施：こども家庭局

区分	等価世帯収入
収入水準①（中央値以上）	325.00万円〔317.54万円〕以上
収入水準②（中央値の50%以上中央値未満）	162.50万円〔158.77万円〕以上 325.00万円〔317.54万円〕未満
収入水準③(中央値の50%未満)	162.50万円〔158.77万円〕未満

【要約】 子供の学力に影響を及ぼす諸要因

～学力に影響する要因、保護者の関与・生活習慣等への影響～

◆ 学力に影響する要因

- 授業理解度が高い児童ほど正答率が高く、主体的な学びが学力向上に寄与。
- 家庭学習時間が長いほどスコアが高く、スマホ・ゲームの使用時間が長いほど学力低下傾向。
- 家庭環境（SES）が低い層ほど学力低下が顕著に見られる。

◆ 保護者の関与、生活習慣等への影響

- 教育意識や声かけ、ルールづくりが子供の学習行動に影響。
- スマホ・ゲームの使用制限が学力向上に寄与。
- 保護者自身の使用傾向も子供に影響を与える可能性。

3. 子供の学力等とスマホに関する 学術論文・文献

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ 「スマホが学力を破壊する」 (2018年)

◆発表者 川島 隆太 (東北大学教授・脳科学者)

◆内容 (要約)

- スマホの利用が子供の学力や脳の発達にどのような影響を及ぼしているか、大規模な調査データに基づいて分析 (東北大学加齢医学研究所と仙台市教育委員会の連携協力による実施)
- **スマホ使用時間が長いほど、学力テストの成績が低下する傾向がある。特にスマホを1日4時間以上使う生徒は、ほとんど使わない生徒よりも成績が著しく低い。**
- **学力低下は、スマホ等を長時間使用することによって生じる家庭での学習時間の短縮や睡眠時間の短縮よりも、直接スマホ等を使用したことによる影響の方が大きい**
- **スマホの使用は、脳の前頭前野 (思考・判断・記憶を司る部分) の発達に影響を及ぼす可能性**
- **勉強中にスマホ (動画視聴、メッセージアプリ等) を使うと「ながら学習」になり、学習効果が激減**

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ 「岡山県の児童・生徒の学力を高める家庭生活や家庭学習について」 (2015年)

◆発表者 森上 敏夫

◆内容 (要約)

- 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに、岡山県の児童・生徒の家庭生活や家庭学習の実態を明らかにし、学力向上に向けた課題と方策を検討したもの
- 岡山県・秋田県・全国の学力調査データを比較し、岡山県の課題を明示
- **スマホやゲームの使用時間が長いほど平均正答率が低下する傾向**
 - ・ ゲーム使用時間が4時間以上の児童は国語Aの平均正答率が64.4%、全くしない児童は77.1%
 - ・ スマホの使用時間が短い児童・生徒ほど全教科で平均正答率が高い
- **家庭学習時間が長く、予習・復習をしている児童・生徒ほど学力が高い**
- **学力が高い児童・生徒の家庭では、規則正しい生活、読書習慣、保護者の積極的な関与（学習支援・学校行事参加など）が共通して見られる。**
- **保護者の生活態度や教育への関心が、子供の学力に強く影響する。**

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ 「LINEの利用傾向および受信メッセージ念慮性と学力の関連」 (2021年)

◆発表者 三浦 将太 (東京大学大学院 情報学環 学際情報学府 博士課程)

◆内容 (要約)

- スマホやLINEなどのメッセージングアプリの利用が、学力にどのような影響を与えるかを明らかにするため、都内私立中学1年生175名を対象に質問紙調査を実施。
- LINEの利用時間自体は学力と有意な相関なし。
- **受信メッセージへの念慮性（気にする傾向）、確認頻度、友達数、受信数は、学力と有意な負の相関がある。利用時の心理的傾向（念慮性など）が学力に影響している可能性がある。**
- **家庭学習時にスマホを収納する習慣がある生徒は、収納しない生徒よりも学力が高い傾向にある。メッセージ念慮性が高くても、収納することで学力が高くなる可能性がある。**
- 学力との関連は「利用時間」よりも「利用傾向」や「心理的影響」による可能性が高い。

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ 「SNSの利用が多い小中学生の特性」 (2025年)

◆発表者 NTTドコモ モバイル社会研究所 水野 一成・近藤 勢津子・吉良 文夫

◆論文 (要約)

- SNS (LINE・X・TikTok・Instagram) を高頻度で利用する小中学生の特性を明らかにし、今後の教育・対策に活かすことを目的として実施。
- 関東1都6県の小中学生とその保護者 600名
- 小中学生のスマホ所有率は年々上昇傾向にあり、それに伴いSNSの利用率も増加 (SNS利用率：小学生63%、中学生96% 令和5年11月時点)
- SNSの利用には、小中学生の人とのつながりを深め、拡大させる正の側面がある一方で、犯罪に巻き込まれるなどの負の側面もある。
- **高頻度利用者の特性として、小中学生の両方において、またサービスを問わず共通して確認できた特性は、「親と子が直接会話する時間」が短いこと。**
- 「ICTスキル」に関しては、小学生では低く、中学生になると高い子が高頻度利用者の特性として見られた。

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ

「Effect of frequent smartphone use on children's cognitive function: An observational study」 (2024年)
頻繁なスマホ使用が子供の認知機能に与える影響：観察研究

◆発表者 Devendra Singh Shekhawat、Harshita Kapoor（責任著者）
Vidhi Gupta、Madhusudan Tiwari（マハトマ・ガンディー医科大学 理学療法学部）

◆内容（要約）

- 対象：2～10歳のインドの子供82名（保護者による回答）
- 使用時間と認知機能の喚起を分析
- 約58.5%の子供が1日2時間以上スマホを使用。約9.7%が、6時間以上使用
- 6時間以上使用する子供の66.7%に、認知柔軟性の低下（問題解決が困難、情報処理が遅いなど）が見られた
- 72.2%の子供に、姿勢の問題（特に頸部）も確認された
- 54.9%の子供がスマホ使用を止めると怒りや攻撃性を示す
- **長時間のスマホ使用は、子供の認知機能や姿勢に悪影響を及ぼす。**
- **特に睡眠不足は、集中力や記憶力の低下に大きく関係する。**
- **保護者は子供のスマホ使用について正しい知識を持ち、適切な使用を管理することが大事**

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ 「中学生におけるスマホ使用が健康関連要因に及ぼす影響」 (2018年)

◆発表者 蛭名 史織 (茨城大学教育学部)、宮本 蘭子 (茨城大学大学院教育学研究科)
荒井 信成 (白鷗大学教育学部)、上地 勝 (茨城大学教育学部)

◆論文 (要約)

- スマホの使用状況およびスモールスクリーンタイム (SST: スマホ・タブレット・ゲーム等の画面使用時間) が、中学生の健康関連要因 (睡眠、精神面、学習、事故など) にどのような影響を与えるかを調査。
- 茨城県T市の公立中学校に通う中学1～3年生611名
- **スマホの使用時間が1日2時間以上、SSTが6時間以上の生徒は、睡眠の質の低下、精神的ストレス、学習時間の減少、登校回避感情の増加など、さまざまな健康・生活上の問題と有意に関連していた。**
- **自宅での勉強時間もSSTと強く関連している。勉強時間が「1時間未満」と回答した生徒において、SST「2時間未満」とSST「6時間以上」の割合を比較したところ、平日はSST「6時間以上」の生徒が「2時間未満」より約2倍高く、休日はさらに差が大きくなった。**

3. 子供の学力等とスマホに関する学術論文・文献

◆テーマ「児童の体力ならびにスクリーンタイムと心理的ストレス反応との関連性」（2014年）

◆発表者 長野 真弓（京都文教大学）、足立 稔（岡山大学）、梶 ちか子（鹿屋体育大学）
熊谷 秋三（九州大学）

◆論文（要約）

- 地方都市の公立小学校と都市部の私立小学校に通う児童を対象に、体力とスクリーンタイム（座位行動の指標）が心理的ストレス反応や欠席日数とどのように関連するかを検討。
- 対象：小学4～6年生の児童249名（地方公立校147名、都市私立校118名）
- 体力水準が低い児童は、スクリーンタイムが長い、外遊びや課外活動時間が短い、欠席日数が多く、無力感のスコアが高い傾向にある
- スクリーンタイムが長いほど、抑うつ・不安症状のリスクが有意に高まる
- **体力の低さとスクリーンタイムの長さは、児童の心理的ストレス反応や欠席日数と有意に関連している。**

【要約】 子供の学力に影響を及ぼす諸要因 ～学術的知見～

◆ 学術的知見

1. スマホの使用時間と学力の関係

- スマホの使用時間が長いほど、学力テストの成績が低下する傾向が複数の研究で示されている。
- 特に1日4時間以上使用する児童・生徒は、ほとんど使わない層よりも成績が著しく低い。ゲームやSNSの使用時間が長い児童は、国語や他教科の平均正答率が低下。

2. 脳・認知機能への影響

- スマホの長時間使用は、前頭前野の発達に悪影響を及ぼす可能性があり、認知柔軟性の低下（問題解決力や情報処理速度の低下）、姿勢異常、睡眠障害などが報告されている。

3. 家庭環境・生活習慣との関連

- 学力が高い児童・生徒は、規則正しい生活習慣、読書習慣、保護者の積極的な関与が共通して見られる。スマホを収納する習慣がある家庭では、学力が高い傾向。
- メッセージアプリの利用傾向（念慮性・確認頻度など）が学力に負の影響を与える可能性があり、利用時間よりも心理的影響が重要とされる。

4. 健康・心理面への影響

- スクリーンタイムが長い児童は、睡眠の質の低下、精神的ストレス、抑うつ・不安症状のリスクが高まり、登校回避感情などの問題と関連。

4. これまでの市の取り組み

4. これまでの市の取り組み

(1) スマートスマホ都市KOBÉ

子供たちがICTツールを上手に使いこなしながら快適なコミュニケーションを図ることで、自分らしく伸び伸びと生活を送ることのできる環境の実現に向けた取り組みを行う。

H28

企画調整局が事業開始

- 「ポケモンGO」などスマホの進化が地域社会・地域経済に与える影響に関する有識者会議

H29

- 神戸市スマホフォーラム開催
「スマートスマホ都市KOBÉ」命名

H30

- スマートスマホ都市KOBÉフォーラム開催

H31-R1

- 「つながらない権利」に関する有識者会議

R2

- 小中学生2000名にスマホ利用アンケート実施
- ワークショップ（非公開）の開催
- スマートスマホ都市KOBÉフォーラムの開催

4. これまでの市の取り組み

(1) スマートスマホ都市KOBE

R3

令和3年度第1回神戸市総合教育会議

＜テーマ＞スマホ・ネット使用に関する子供の実態と今後の取組

- ・ 保護者向け啓発ポスター制作・掲出
- ・ アプリの開発やネットの使い方に関するプロジェクトチーム（全5回）

R4

- ・ スマホとスマートにつきあうための合宿（@六甲山、2泊3日）

R5

こども家庭局に移管

- ・ 「**賢いネットキャンプ**」（@六甲山、日帰り×2回） **※R6,R7も継続**

小中学生を対象に、六甲山の自然の中でリアルな体験や人間関係に触れ、ネットとの関わり方を考える

R6

- ・ 「**ワークショップ**」（@本山児童館、小4～小6） **※R7も継続**

地域に身近な施設である児童館で「賢いネットキャンプ」のエッセンスを体験できるワークショップ開催し、ネットとの関わり方を考える

- ・ 「**高校生と中学生の合同フォーラム**」（@布引中学校） **※R7も継続**

SNS利用についての探究活動を行っている高校生（関西学院高等部ICT委員会）とともに、ネットやSNSとの付き合い方を考える

4. これまでの市の取り組み

(2) - 1 令和3年度第1回神戸市総合教育会議 (R3.4.20)

<テーマ> 子どものスマホ・ネット利用の実態と今後の取組み

(2) - 2 総合教育会議後の取組内容

●プロジェクトチームの設置

構成員：児童生徒・教員・保護者・市職員・開発者・専門家

取組内容：アプリの開発、啓発ツールの作成

●教材開発 (UIK)

- 「ネットに潜むダークパターンを楽しく学べる教材開発」を採択し共同実証後、市内学校に配布



●保護者への啓発

- 啓発ポスターをデジタルサイネージ等で掲出
- 保護者との連絡ツール（すぐーる）で配信



4. これまでの市の取り組み

(3) 神戸の子ども居場所フォーラム ～子供が外遊びできる協働の居場所づくり～

フォーラム概要

開催回数：3回（令和5年12月～令和6年3月）
参加者：大学教授、NPO代表、行政関係者など
議題：外遊びの現状、居場所づくり、連携のあり方、事例紹介など

背景と課題

- ・ 少子化と共働き世帯の増加により子育て環境が変化
- ・ 子供の体力低下や創造力の欠如が社会問題に
- ・ スクリーンタイムの増加、外遊びの機会減少
- ・ 遊び場の制限や安全志向が子供の成長機会を奪っている

提言（意見）

提言① 外遊びの時間確保

- ・ 放課後などにまとまった遊び時間を確保
- ・ 家庭への啓発活動で外遊びの重要性を周知

提言② 外遊びの場所の確保

- ・ 自然を活かした遊び（森のようちえん等）の推進
- ・ 子供の主体性を育む場づくり

提言③ 人材の育成と支援

- ・ 地域、NPO、大学など多様な協力者の連携
- ・ 情報発信と支援体制の構築

提言④ ワクワクするまちづくり

- ・ 子供の意見を政策に反映し、主体性・創造力を育む

結論とメッセージ

- ・ 外遊びは子供の成長に不可欠
- ・ 子供の「やりたい！」を尊重し、主体的な遊びを支援する環境づくりが重要
- ・ 国際遊びの日（6月11日）にも触れ、世界的な流れに呼応した取り組みを神戸でも進めるべき

【スマホを使用する上での主な視点】

スマホ（ICT）の 効果的な使い方

- 学校：学習用パソコン
- 家庭：学習用パソコン、
自分のスマホ
- 学習：個別最適・協働の学び、
調べ学習、 探究的学び

スマホ（ICT）との 適切な付き合い方

- 家庭
（話し合い、ルールづくり）
- 学校
（スマホを学び・考える）
- 健康・認知機能等への影響
- 人間関係
- ネットトラブル、犯罪回避

スマホ（ICT）では できない／代替しにくい活動

- 外遊び・身体活動
 - ・ 自然とのふれあい
 - ・ 運動能力の発達
 - ・ 五感の刺激
- 対面でのコミュニケーション
 - ・ 表情・声のニュアンスを読み取る力
 - ・ 共感力・社会性の発達
- 創造的・具体物を扱う活動
 - ・ 工作、絵画、粘土遊び等の創作活動
 - ・ 手先の器用さや集中力の育成

参考. 子供の学力とスマホに関連する施策例

	学 校	家 庭
学 力	- 主体的・対話的な授業改善（個別最適な学びと協働的な学びの充実） - 教材開発 - 学力学習状況調査の分析とフィードバック - 放課後学習支援（NPO、地域ボランティア、市長部局との連携）	「じぶん学習」推進（家庭学習の習慣化） - 保護者への啓発（学校外での過ごし方や保護者の意識が学力に及ぼす傾向）
ス マ ホ	- インターネット安全教室（SNS・動画視聴のリスク教育） - スマホフォーラム（高校生×中学生） - SNS・動画視聴との付き合い方の指導 - 探究活動（SNSとの付き合い方） - スマホ依存傾向の理解促進（脳科学・心理学的知見の共有）	- 家庭内ルールづくり（使用時間・収納習慣） - 保護者のスマホ使用見直し（モデル行動） - 学習ツールとしての有効活用（辞書アプリ、学習動画） - 親子の会話時間の確保（家庭内コミュニケーション）